

環境学部教育課程編成の方針

教育課程の編成と特色

環境学部の教育課程は、学士課程における修業年限4年間で「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

- ・導入期は、1年次必修科目、「環境フィールドスタディ」、「環境リーダーシップEL1（学びの技法含む）」、「学びの精神」、言語教育科目で構成し、形成期、完成期における学修の基礎を醸成する。なお、NEXUSプログラムでは、標準 0.5 年間〔1学期間〕の日本語集中履修期間に加え、言語Aおよび言語Bにおける日本語、ならびに平易な日本語を用いて実施する「学びの精神」の履修をとおして、学ぶための姿勢と基礎的な知識・技法を身につける。
- ・形成期は、1年次必修科目、「環境リーダーシップEL2」にくわえて、基幹科目の履修を通じて基礎的な学修の完成を目指すとともに、発展科目、実践科目を履修することによって、自らの専門性を見出し、現場での実践力を養う。基幹科目は、環境に関する重要なトピックを文理にまたがる複数の学問分野の視点から読み解く「A:環境総合」、人文社会科学系の基礎を身につける「B:人間と社会」、自然科学系の基礎を身につける「C:科学と技術」の科目群からバランスよく履修することによって、文理の枠を越えた視野・視点・視座を身につける。発展科目は、講義系科目に加え、自然科学系の実験・実習科目を含む、環境学を構成する多様な分野の中から選択し履修することによって、自らの専門性を見出し、深めていく。形成期の実践科目においては、様々な環境課題の現場で実践的な活動をおこなう。これらの学びを通して、環境正義の理念を理解し、幅広い知識を現実の課題と結びつけながら活用できる力を身につける。
- ・完成期は、引き続き、発展科目や実践科目の履修を通じて、学生の軸となる領域に関して専門的、個別的な内容を学習し、その専門性を磨いていくとともに、周辺領域の学問分野についても学びを拡げていく。卒業論文・プロジェクト関係科目の履修を通じ、4年間の学修の集大成として、学問的な研究を行い論文を執筆する「卒業論文」、または実際の課題解決につながる活動を自ら計画・実行する「卒業プロジェクト」のいずれかを選択して取り組む。また、「環境コロキウム1・2」を履修し、自分の専門性を軸に、他の学生や教員との交流の中で、環境問題の本質を考え、持続可能な未来の実現に向けた社会変革に参画する意志を共有する。